

読んでみよう



ランドセルは海をこえて

うちぼり
内堀 タケン 文・写真

ぼくは、今アフガニスタンに向かって
いる。日本で使われなくなったランドセ
ルをアフガニスタンへおくる活動を写真
にのこすためだ。ぼくは、十年以上、毎
年アフガニスタンへ行って、写真をとっ
ている。空と土。人々のくらし。そして、
日本からおくられたランドセルと子ども
たちを。写真を通して、ぼくが目にした
ことを君たちに知ってもらいたいから。

10

5



104 ページで取り上げている本です。ここに書かれ
た事実を知って、どんなことを感じるでしょうか。



へ通う小学生のたから物になる。日本からおくられたランドセルを配る日、ランドセルを受け取る子どもたちを見ると、ぼくも本当にうれしくなる。

「ランドセルを持って帰ると、学校が家にやって来たみたい。わたしも幸せだ」

5

けど、家族も幸せ。

「ぼく、ランドセルをもらってうれしくって、家まで走って帰ったよ。」

「うれしくってジャンプしたんだ。」

「幸せ。これで勉強できるんだよ。ほら、すごいよ。」

5

民族

ヨーロッパとアジアと中東の国々にかこまれた、アフガニスタン。せいじ、宗教、民族などふくざつな事情が原因となつて、長く戦争じやうたいがつづいている。また、生まれてから五さいになる前に空腹や病気で死亡してしまふ子どもが多く、子どもたちが当たり前に成長することがむずかしい国だ。

それでも、ぼくが出会つた人々のひとはとてもかがやいていた。戦争の中を生きてきた人々は、「生きていること」とうとさを知っている。命があるから苦しいことも楽しいことも実感できる。だからこそ、人々は生き生きとしている。

アフガニスタンの小学生は、ランドセル

15

ルを知らない。使つたことも、見たこともない。日本では、小学校に入学するとき、多くの人がランドセルをじゅんびする。そして、ランドセルは、六年間君たちといっしょに学校へ通うことになる。君たちが使つた、そのランドセルに文具を入れて、アフガニスタンの子どもたちにおける活動が十年もつづいている。

今も戦争じやうたいのアフガニスタンでは、だれもが学校へ通うためのかばんや文具をそろえられるわけではない。だから、おくられたランドセルは、学校

15

中東

ヨーロッパから見て東側にあるちいきを三つに分けたうちの、中間に当たるところ。イランやイラクなどの国がある。





クラスには、いろいろな年れいの子どもがいる。アフガニスタンでは、子どもたちも大人と同じくらい大切な働き手だ。商売や農業の手伝いはもちろん、水くみ、家畜の世話、すいじせんたく、弟や妹の世話——いろいろな仕事をして、家族どうしでささえ合う。だから、学校に通い

5



始める年れいが、ちがってくる。まずしい家庭では、きょうだい全員が学校に行けるとはかぎらない。だれが、いつ学校に行けるかは、そのときどきの家の事情でかわってくる。

そういうかんきょうでは、ランドセルは大きな意味をもつ。同じ村にランドセル

5

◆
てっだ
手伝い

はたら
働き手



ここは学校。

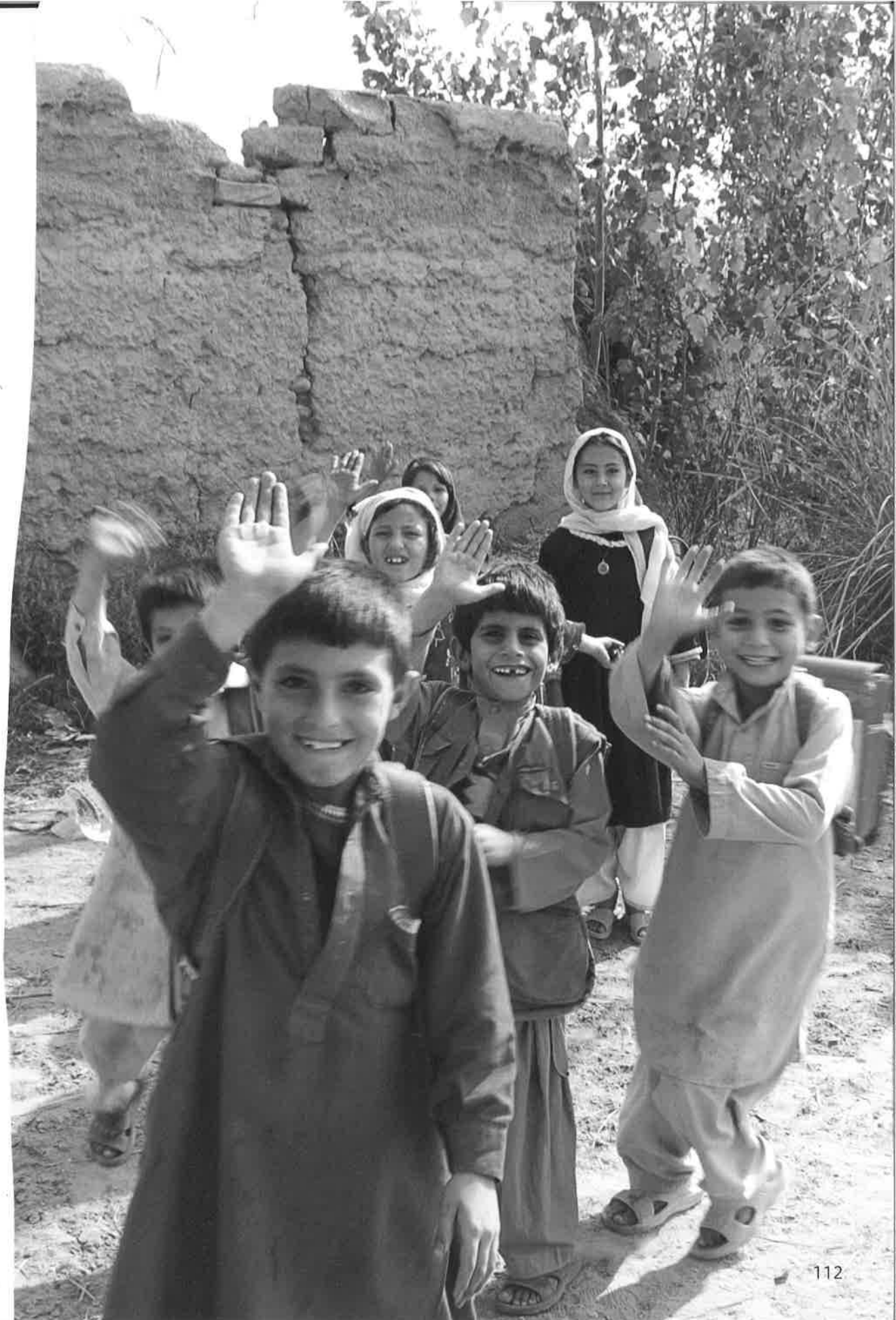
アフガニスタンでは、整備された学校があるとはかぎらない。教科書もノートも、当たり前にあるわけではない。校舎もつくえもいすもなく、地面にすわって勉強をする学校が多くある。小さな黒板だけが学校の印。それでも、みんな勉強が大好きだ。字が読めるようになり、書けるようになり、新しいことをたくさん知る。みんな、すごい集中力。先生の言葉を聞きたいと、じっと前を見ている。

じゆぎょう中は、先生のしつもんについていに手をあげ、しんけんに答える。君たちがおくれたじょうぶなランドセルは、かばんとしてはもちろん、つくえの代わりに使われている。

15

10

5



ルをせおった子どもがいることで、学校に行っていない子どもたちの親が、自分の子どもも学校に行かせたいという気持ちになるからだ。紛争が長くつづいてい
るアフガニスタンには、大人でも文字を読めない人がたくさんいる。文字が読めない
と、仕事もかぎられる。新聞や本が読めず、社会で起きている出来事を知る
機会も少なくなる。健康で安全にくらす方法を知ること
もむずかしい。

10

5

学校は、未来へつながる希望だ。勉強を
することで、文字を覚え、計算もでき
るようになる。文字を読むことができ

ば、買ってきた薬をいつ、どのくらい飲めばいいのかが分かる。そして、衛
生的なくらしをして家族を病気から守ることが
できる。

子どもたちは、学校に行く自分のこと
だけを考えているのではない。まわりの
人を助け、人の役に立ちたいと思ってい
る。まわりの人に助けられながら、自分
の命があることを知っているからだ。

10

5

ぼくが子どものころ、こんなにしんけ
んに家族やしょうらいのこと、そして命
のことを考えたことはなかった。
君は、どうですか。

健康

内堀 タケシ

一九五五年、東京都生まれ。写真家。国内外の各地を広く取材している。この文章は、二〇一三年に書かれた。

未ミ

希キ

望

のほウ
のそむ

民ミシ

働

はたウ
はたらく

健

ケン

康

コウ

155
ページ